



遠野の狐も、人を化かす。



和野に住む菊蔵という男が、  
柏崎の姉の家に呼ばれて出掛けた。  
たらふくご馳走になり、  
おみやげの餅までもらって帰った。

すっかり暗くなってからのことだ。

すると、林の中に友人の藤七が立っていた。  
「こんなところでお前と出会うとはな。  
どうだ、相撲でもとうろうぜ」  
藤七はにこにこわらいながらそういった。





菊蔵は少し酔っていたので、  
よしきたとばかり相撲を取った。  
ところが、大柄な藤七がやけに軽い。  
簡単に投げ飛ばせる。  
三回取り組んで、  
三度とも投げ飛ばした。

「こりやかなわない。  
今晚はもうやめよう」

藤七がそういうので、  
そこで別れた。

